

社会言語学研究

単位数	2
開講時期	前期

授業の目的および概要

言語態度(Language Attitudes)の研究

社会言語学の近年の進展において、言語のバリエーションや変件事象における話者の主観的態度やイデオロギーの果たす役割が注目されている。言語産出データ(つまり、発話データ)の分析と検討が主流であった従来の研究アプローチだけではなく、対話者(聞き手)がある言語学的特性を持つ発話をどのように知覚し、その話者に対してどのような社会的評価を下すか等に関する知見は、言語のバリエーションの動機付けとなりうる社会的・心理的要因や言語変化のプロセスの把握において極めて重要であることが近年の研究で指摘されている。

本講義では、これらの学問的潮流を受けて、ある特定の言語変種に向けられる人々の固定観念や評価の実態を探る「言語態度」研究の最新の研究成果を概観する。その際に、特に言語態度を検証する方法論に焦点をあて、履修者が独自の調査プロジェクトを立案・実施するためのノウハウの習得を最終的な目的とする。

学期を通して二つの調査プロジェクトの立案を課する。一つ目は、日本語の地域方言に対して人々が持つ態度や評価を検証するプロジェクト。二つ目は、多様な英語変種(地域方言や民族方言)に対して人々が持つ態度や評価を検証するプロジェクトである。

(予告)後期の社会言語学演習では、これらの調査プロジェクトを実際に遂行し、調査の進捗報告、収集されたデータを分析するデータセッション、調査成果を小論にまとめる等の活動を行う。

授業方法

テキストの指定箇所の概要の口頭発表(小節を分担)、および適宜、補足講義を行う。

到達目標

言語態度研究においてこれまで重要とされる研究成果に精通するとともに、言語態度に関する独自の研究テーマを発掘し、調査プロジェクトを立案する。

授業計画

第1回 オリエンテーション(講義計画、教材、学生発表、学生プロジェクト、評価方法等)、言語変異・変化研究の今日的展開について

第2回 言語態度の研究(概説)

第3回 言語態度とは何か

第4回 言語態度研究の主要な方法論(イントロ)

第5回 マッチドガイズ・バーバルガイズ調査(1): 初期の研究

第6回 マッチドガイズ・バーバルガイズ調査(2): 近年の進展

第7回 発話スタイル・話者特性・社会的場面に関わる言語態度の多様性

第8回 発話応化理論

第9回 職場における言語態度

第10回 Societal Treatment調査

第11回 直接的調査

第12回 民俗言語学(Folklinguistics)的調査

第13回 言語態度の統合的研究アプローチ

第14回 研究計画に関する学生発表および討議

第15回 全体のまとめ

成績評価方法

以下の活動で総合的に評価する。

- 授業内発表およびディスカッションへの貢献度(50%)
- 言語態度調査の計画書(二種類)(各25%)

準備学習

テキスト以外にも関係する文献・参考書・論文等を読み、講義内容の理解を深めること。

教科書参考書

教科書: Garrett, Peter. (2010). Attitudes to Language. Cambridge University Press.

参考書等: ① Meyerhoff, Miriam. (2011). Introducing Sociolinguistics. 2nd Edition. New York: Routledge ② 日比谷潤子(編著)(2012)『はじめて学ぶ社会言語学』ミネルヴァ書房 ③『応用言語学事典』研究社

注意事項

授業内で英文の精読・輪読は行わないので、受講者は毎時間扱う箇所を各自で必ず読んでおいてください。後期に担当者が提供する「社会言語学演習」とセットで本講義を履修してください。